東大阪市



- ◇ 東大阪市では2011年に「第3次東大阪市男女共同参画推進計画〜東大阪 みらい 翔はばたきプラン〜」を策定し、男女共同参画社会の実現をめざして様々な施策に取り組んできましたが、この計画は2020年度に目標年次を迎えるため、第4次計画の策定を予定しています。
- ◇ このため、男女共同参画について日頃のお考えを把握して、今後の課題や方向性を導くことなどを目的として、18歳以上の市民のみなさま3,000人を無作為に選び調査を実施しました。
- ◇ 調査内容は多岐にわたりますが、この冊子では身近なテーマを中心にして、結果の概要を 紹介します。

◆ 調査の概要 ◆

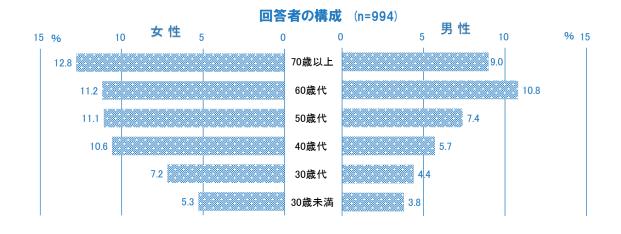
調 査 期 間 2018年7月~9月

調査方法郵送調査

有効回収率 33.3% (994/2,981)

主な調査項目 仕事と生活の調和、子どもの育て方と教育、暮らしと悩み、メディアの表現、性のあり方、配偶者や恋人間の暴力、男女共同参画社会の形成

[グラフ中の「n」は、それぞれの回答結果の割合(%)の分母(100%にあたる数)です]



仕事と生活の調和

▶ 生活で第1に優先したいこと [図1]

- **問** 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人生活」のどれを優先していますか
- 希望では、男女ともに優先したいこととして家庭生活や個人生活が高くなっています。
- 現状では、女性は家庭生活、仕事の順に高く、男性では仕事、家庭生活の順に高くなっています。

希望 現状 % 60 60 % 0 0 14.3 44.4 10.0 仕 事 36.4 20.5 55.7 46.0 49.9 家庭生活 42.3 17.4 40.6 0.9 1.7 0.9 地域活動 1.6 1.0 2.0

個人生活

無回答

13.1

16.9

10.5

9.0

9.2

8.1

[図1] 生活で第1に優先したいこと



30.0

29.7

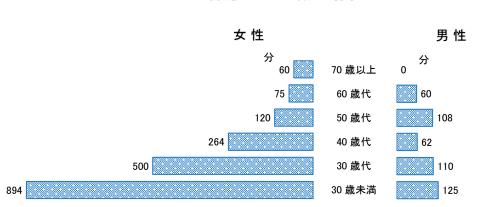
30.6

全体(n=994)··· 8.9

女性(n=579)··· 9.5

男性(n=409)··· 7.3

- **問** ふだん平日に、あなたは、家事・育児・介護についてどれくらいの時間を使っていますか
- 〇 12歳以下の子どもがいる世帯で1日に育児のために使う時間は女性のほうが高く、特に30歳未満の女性では約15時間、30歳代の女性では8時間以上を費やしており、同年代の男性と比較すると30歳未満では男性の約7倍、30歳代では男性の約4倍以上となっています。

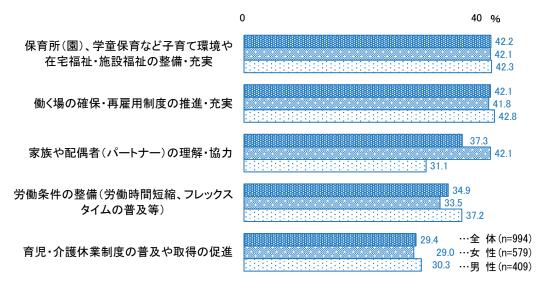


[図2] 育児で1日に使う時間

▶ 仕事と生活の調和のために必要なこと [図3]

- **問** 男女がともに仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要ですか
- 男女ともに、仕事と生活の調和のために必要と考えていることは、「保育所(園)、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」の順に高いです。これらに続いて、女性では「家族や配偶者(パートナー)の理解・協力」、男性では「労働条件の整備(労働時間短縮、フレックスタイムの普及等)」となっています。

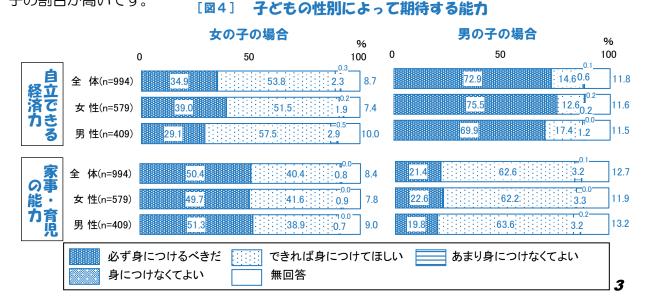




子どもの育て方と教育

▶ 子どもの性別の違いによって期待する能力 [図4]

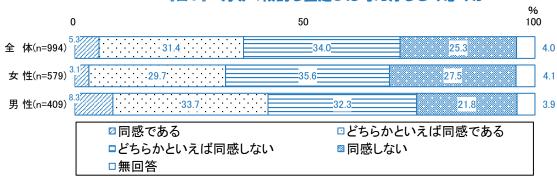
- **問** お子さんにどのくらい身につけてほしいと思いますか。①女の子②男の子、それぞれについて答 えてください
- 子どもの性別の違いによって期待する能力について、最も大きな差があるのは、自立できる 経済力と家事・育児の能力でした。
- 自立できる経済力を「必ず身につけるべきだ」とする割合は、男の子より女の子の割合が低いです。また、家事・育児の能力を「必ず身につけるべきだ」とする割合は、男の子より女の子の割合が高いです。



暮らしと悩み

▶ 固定的な性別役割分担意識 [図5]

- 問「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、あなたはどう思いますか
- 男女ともに「同感派」(同感+どちらかといえば同感)より、「同感しない派」(同感しない) +どちらかといえば同感しない)の方が高くなっています。

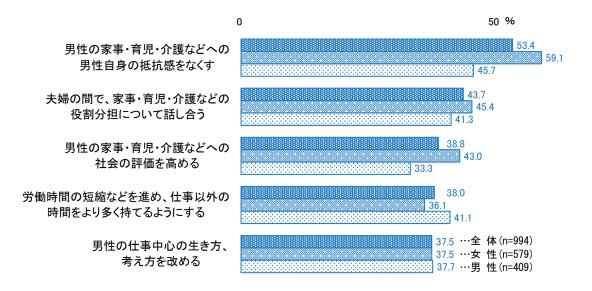


[図5] 男女の役割を固定した考え方をどう思うか

▶ 男性の家事参加 [図6]

- **問** 男性が家事・育児・介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要ですか
- 男性の家事参加については、男女ともに、「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」、「夫婦の間で、家事・育児・介護などの役割分担について話し合う」の順に高いです。これらに続いて、女性では「男性の家事・育児・介護などへの社会の評価を高める」、男性では「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」となっています。

[図6] 男性の家事参加のために必要なこと(全体の上位5)

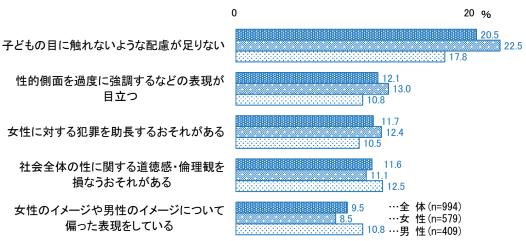


メディアの表現

▶メディアの表現の問題 [図7]

- **問** テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲームなどのメディアにおける表現についてど う思いますか
- テレビやインターネットなどの表現については、男女ともに「子どもの目に触れないよう な配慮が足りない」が最も高いです。



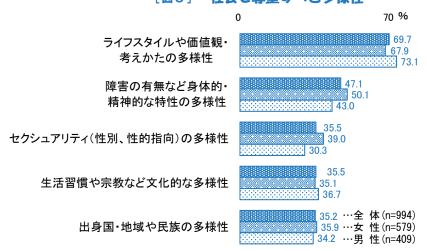


性のあり方

▶ 社会で尊重すべき多様性 [図8]

- **問** 人が互いの違いを受け入れあって社会の活力を増進するために、特に尊重すべき多様性は何だ と考えますか
- 社会で尊重すべき多様性として、男女共に「ライフスタイルや価値観・考え方の多様性」が 最も多く、これに「障害の有無などの身体的・精神的な特性の多様性」「セクシュアリティ(性 別や性的指向)の多様性」が続いています。

[図8] 社会で尊重すべき多様性



配偶者や恋人間の暴力

▶ DV の被害経験の割合 [図9]

0.2

3.0

4.7

0.5

相手がいかがっているのに性的な行

為を強要する

1.5

2.9

4.7

- **問** あなたは配偶者や恋人に、次のようなことをされたり、したことがありますか
- 「大声でどなったり物を壊したりする」などの精神的暴力や、「平手で打つ」などの身体的暴力が占める割合が高く、「何度もされた」と「1、2度された」との割合を合わせると、 13項目すべてにおいて、女性がされた割合が高くなっています。
- 女性の被害経験割合が高いものとして「大声でどなったり物を壊したりする」があげられ、女性の6人に1人が被害経験者となっています。

n 20% 0.5 2.3 見たくないのに ■何度もされた 平手で打つ アダルトサイト 0.9 2.6 7.1 などを見せる #1、2度された 0.0 0.2 1.2 3.4 4.0 こぶしでなぐ 何を言っても 3.2 24 ったり、足で 長期間無視し 3.6 3.8 2.8 続ける 蹴る 2.7 2.7 1.7 1.7 1.0 交遊関係など を細かくチェ 身体を傷つける 1.6 3.5 1.8 可能性のある物 1.2 2.2 2.8 でなぐる ックする 0.5 0.7 0.5 3.2 2.9 3.8 3.8 誰のおかげで生 生活費を渡さ 活できるんだ」な ない 4.5 6.6 6.0 どと言う 0.7 0.2 0.0 0.7 4.0 6.4 大声でどなっ たり物を壊し 2.3 6.0 なぐるふりを 3.5 8.8 して、おどす たりする 0.7 3.7 1.2 2.0 0.3 1.7 刃物などをつ ···全 体(n=994) 2.4 2.0 避妊に協力し きつけて、おどす 0.2 1.9 ない 3.5 …女 性(n=579) 4.0

[図9] されたことがある

DV(ドメスティック・バイオレンス)

0.0

0.0

···男性(n=409)

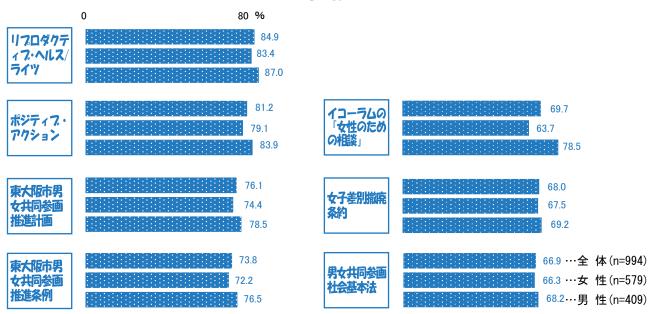
夫婦や恋人など親密な関係にある男女(パートナー)間において加えられる身体的・精神的・性的・経済的な暴力や社会的隔離をいい、女性が被害者の場合が多いです。物理的な暴力だけでなく、脅し、無視、言動の制限、強制、苦痛を与えることも含まれます。

男女共同参画社会の形成

▶ 男女共同参画に関わる法律や言葉、東大阪市の取組み [図 10]

- **問** 次の法律や言葉、東大阪市の取り組みを知っていますか
- 男女共同参画に関わる用語で「知らない」とする割合が高い用語を掲げました。
- あまり知られていない用語には、「東大阪市男女共同参画推進計画」「東大阪市男女共同参画推進 条例」などの市が取り組んでいる計画・条例などの身近なルールから、「リプロダクティブ・ヘル ス/ライツ」「ポジティブ・アクション」など世界共通の考え方まで幅広いものが含まれています。

[図 10]「知らない」割合(全体の上位7位)



リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

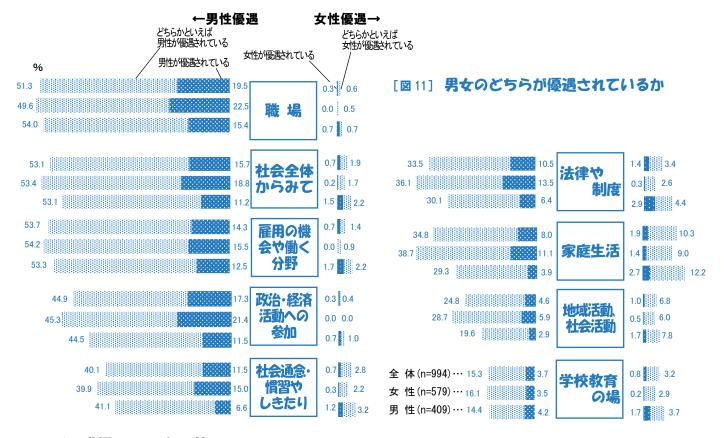
個人、特に女性が生涯にわたって、主体的に自らの体と健康の保持増進と自己決定を図ることと、そのための身体的・精神的・社会的な諸権利が基本的な人権として保障される考え方のこと。主な課題として、安全な性生活や子どもをいつ何人産むか、産まないかなどについて女性が主体的に選択し、自ら決定することや、安全な妊娠・出産などがあげられます。

ポジティブ・アクション

積極的改善措置と訳され、男女が社会の対 等な構成員として、自らの意思によって社会 のあらゆる分野における活動に参画する機 会に係る男女間の格差を改善するため、必 要な範囲において、男女のいずれか一方に 対し、当該機会を積極的に提供することをい います。

▶ 男女のどちらが優遇されているのか [図11]

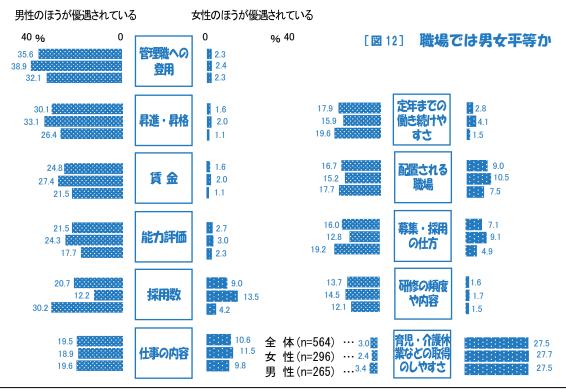
- **問** 社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか
- 男女の平等度については、9 つの分野すべてにおいて「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計割合(男性優遇)が「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計割合(女性優遇)を上回りました。



▶ 職場では男女平等か [図 12]

問 今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると思いますか

- 〇 職場における性別による評価の差については、ほとんどの項目で「男性の方が優遇されている」(男性優遇)の割合が「女性の方が優遇されている」(女性優遇)の割合を上回っています。「育児・介護休暇などの取得しやすさ」については、「女性の方が優遇されている」(女性優遇)の割合が高くなっています。
- また、「育児・介護休業などの取得のしやすさ」「採用数」については女性の意見として、 女性優遇の意見が高くなっています。



東大阪市 男女共同参画に関する市民意識調査の結果 ダイジェスト版 (発行) 平成31年(2019年)3月東大阪市人権文化部男女共同参画課